

●Q & A

Q1. ゲームに使う質問カードはどのように選ばいいですか？

A1. 基本は、質問カードを全て混ぜて、プレイ人数に応じた枚数を使います。お子さんが多い場合は子ども向けマークの付いたカードを多めにしたり、大人が多い場合はブラックなカードを全て入れたり、調整しても良いでしょう。質問カードを選ぶ場合は、全員答える質問カードを入れるのがオススメです。

Q2. 質問カードをひいた結果、（みんな答えよう）と書いてありました。どうすればいいですか？

A2. カードを引いた人は、ゲームを遊んでいる全員に質問し、カードを引いた人も含めた全員が答えます。お坊さんカードで、この質問について答えることになったら、全員分の答えを話さなければいけません。

コラム

お盆に想いをのせて

生きている間に、家族でお互いのことをよく分かりあおうと話をしてほしい。自分のまわりにはどんな人がいたのか、どんなことを考えていたのか。あなたの家族について覚えていてほしい。…そんな思いでお盆カードゲームをおつくりしました。

陽岳寺では亡くなられた方ごとにお葬式の内容をひとつひとつ考えては作り、行うため、故人の人柄やエピソードをご家族にお話を伺います。優しい人だったのか、厳しい人だったのか。聞き役なのか、話す方だったのか、など。ともに過ごした思い出、家族の歴史の中から、故人の姿が現れます。

家族と過ごした時間とは、人生のうちのほんのすこしの接点です。たとえば、一緒に遊んだこと、怒られたこと、話をしたこと。その接点がつながることで線となり、交わり、平面になり、積み重なった時、記憶・思い出や家族の歴史となるのでしょう。

ほんのすこしの接点の積み重なりを縁にして、家族の歴史がにつくられ、家族ひとりひとりの人生もつくられるようです。

自分の人生をより良いものとするならば、家族との接点を大切にしたいものです。ともに歴史をつくる家族について知っておきたい、覚えておきたい。みんなで思い出したい。生きている間にしっかりと話をしておきたいと思わないでしょうか。

7月や8月のお盆には、先に逝った家族が帰ってくると言われています。お盆休みによる里帰りの機会と言ってもいいかもしれません。せつかく家族が集まるのならば、家族を、そして自分を知るきっかけにしてほしいと思います。

このゲームでは「自分からわざわざしないような話」をお互いに聞きあうこととなります。何気ない話のなかにでてくる「意外な事実」や「その人らしさ」に、驚いたり、笑ったりします。

そして、みんな覚えて、思い出す。『あの時あんなことを聞いたら、こんなことを言っていたなア』といったほんのささいな出来事を、思い出すことで家族の歴史として心にとどめてほしい。

お盆に。お正月など家族・親戚が集まったときに。友達同士。ボードゲーム会で。みなさんがお互いのことを、よく話し、よく聞き、よく分かりあおうと思ひ、このお盆カードゲームを遊んでいただけたら幸いです。 合掌

なにかあったら、こちらまでご連絡ください。

info@puninokai.com / Twitter @puninokai

企画・ゲームデザイン：向井真人（陽岳寺）

製作協力：ゲーミフィジャパン イラスト：長縄キヌエ

ようがくじ「不二の会（ぶにの会）」<http://www.puninokai.com>



●ストーリー

私たちは久しぶりに顔を合わせた家族・親戚です。こうしてみんなが集まることはなかなかありません。

これもなにかの縁だ。

「自分からわざわざしないような話」を聞きあって、みんなで覚えておこう！
お互いのことを、よく知る機会にしようじゃないか！

ということになりました。

お盆がきたらお坊さんがやってきます。

そして、「家族とした会話の思い出」を聞いてくることでしょう。

『あの時あんなことを聞いたら、こんなことを言っていたなア』

と思ひ出せるようにしなければなりません。

さあみんなで、WAになって語りましょう！

●セット内容

・ゲームカード74枚

質問カード64枚

大人の方が答えやすいカード32枚

（そのうちブラックな質問カードが5枚）

子供でも答えやすいカード32枚

（そのうち全員答える質問カードが7枚）

お坊さんカード10枚（1～9のカード、5だけ2枚）

・お盆1枚

・説明書1枚